

## 「アベノミクス経済の今後と恩恵を受ける業界や関連企業 前編」

こんにちは、株式会社 ZUU の富田和成です。

今回は金融市場や経済的な視点からの話題をお伝えしたいと存じます。

政権交代から、あと数ヶ月で1年が経とうとしています。今回は、参議院選挙や東京オリンピック開催決定などの新しいイベント等を踏まえてアベノミクス経済についても一度考えてみたいと思います。



### ○アベノミクスの現在の状況

先月の参議院選挙は下馬評通り、自民党・公明党の連立与党が過半数を確保する結果になりました。

そして、日本を含む世界の投資家の多くは、この事をポジティブに受けてとめているようです。マネックス証券チーフストラテジストの広木隆氏は「株式市場にとってポジティブな材料であることは確かで、外国人投資家は衆参のねじれ解消を評価してくるのではないかと。今後、ロングマネーなど腰の据わった海外資金が日本株に流入してくるとみられる」という見方をしています。

果たして、アベノミクスには今後も期待をして良いのでしょうか。多くの方が注目するこのテーマですが、アベノミクス第3の矢である「成長戦略(とそのための経済改革)」次第であるというのが大方の見方というて良いでしょう。

もともと毛利元就の伝承で使われる「三本の矢」は、1本の矢は簡単に折れるが3本合わせれば簡単には折れない、ということでした。アベノミクスの3本の矢もまさに同じ状況といえるでしょう。

1本目の矢である金融政策、2本目の矢である財政政策は現状好意的に受止められ、3本目の矢である成長戦略とそのための規制緩和などの経済改革に注目が集まっています。

そして、これまでは衆参のねじれがあったために政治が不安定で、力強い改革はできないと思われてきました。しかし、7月の参議院選挙で「ねじれ」が解消したことに加え、連立与党が衆議院の3分の2を占めること、さらに今後2～3年間は政局が安定することを考え合わせると、政府は強力な改革を進めるための土壌は得られたといえるでしょう。

また、9月8日(日本時間)に、2020年の夏季五輪開催が決定されました。このこともアベノミクスの追い風となりそうです。この結果、東京には379億ドル(約3.7兆円)の経済効果と15万2000人の雇用がもたらされるといいます。日本にとって、この巨額の収入は喉から手が出るほどに欲しい経済のカンフル剤といえるでしょう。

## ○マーケットの状況

昨年の12月の政権交代以降、為替レートが急激な円安となり平均株価も大きく高騰しました。昨年最安値の6月4日の8,295円から、今年の最高値の5月22日の15,700円超え(2013年9月9日現在)まで大きく伸び、日本経済の先行きに希望の光が射し始めたようにも思えます。

これは特に、アベノミクス第1の矢の金融緩和による円安効果が大きく、例えば2013年8月2日に発表されたトヨタ自動車の2014年3月期第1四半期の決算では、安倍政権による経済政策、いわゆる“アベノミクス”の効果によって、四半期ベースでは過去最高の最終利益をたたき出しています。

しかし、マーケットの反応は明るい話題ばかりではありません。6月5日に発表された安倍首相の成長戦略に対しては、その内容への失望から市場は大きくその値を下げるなど(終値518円安)、依然予断を許さぬ状況が続いています。

なお、足下の実体経済の指標ですが、日銀が発表した6月の企業短期経済観測調査(短観)では、5月下旬に金融市場が一時乱高下したにも関わらず、デフレ脱却を目指す安倍政権の経済政策「アベノミクス」への期待感から大企業ではその心理が大幅に上向いたことを示しています。

もともと、中小企業の景況感は依然厳しく、大企業中心の企業心理の好転が、設備投資や賃金、雇用の拡大に結びつき、どう全体の実体経済に波及するかが課題といわれています。

## ○専門家の意見は真っ二つに分かれる

アベノミクスに対しては、国内外でも肯定、否定様々なコメントが発せられています。

肯定的なものとしては、例えば著名な経済学者であるポール・クルーグマン氏は、「私はアベノミクスを評価している。日本がデフレの罠から脱却するために必要な政策である」「日本の期待インフレ率はちょうどよい値で推移している。少しのインフレ期待があることで、経済にとってプラスに働いている状況になっている」「円が安くなれば日本の製造業の輸出増を牽引することになる」と述べ、アベノミクスを評価しています。

一方で、アベノミクスには多くの否定論や悲観論も存在しています。

例えば、古賀茂明氏(元通産省職員)は、アベノミクスの一番重要な3本目の矢である「成長戦略」は、官僚や族議員主導の古い自民党体制を復活させようとしているだけであると指摘しています。特に「設備投資減税」の対象となる企業の選定を霞ヶ関で行うために、そこに利権が生まれ、天下りの温床となるだけであると指摘しています。

また、三菱UFJモルガン・スタンレー証券・投資情報部長の藤戸則弘氏は、「表向きは経済第一主義の看板を掲げていても、中身が伴わなければこれまでの政権と同じになってしまう。既得権者の抵抗に逆らっても、政策実行に必要な法案の整備や思い切った予算を付けることができるのか、憲法改正などだけに注力してしまわないか、市場は見ている」と述べています。

三本の矢には賛成であるものの、本当に実現できるのか、ということも大きな問題であるということでしょう。

アベノミクスへの悲観論も、特に多いのは経済改革を伴わざるを得ない第3の矢が本当に適切に実行されるのかということに危ぶむ声が多々感じます。

以上、今回の記事ではアベノミクスの現状についてのまとめ等をお届けしました。次回の記事でもアベノミクスについて、今後の論点や、恩恵を受ける業界や関連する投資テーマや関連企業などを中心にお届けしたいと思います。

## <著者プロフィール>

**富田和成**

株式会社ZUU 代表取締役社長兼CEO

<http://diamond.jp/ud/lecturer/516281f51e2ffa4970000002>

大学在学中にソーシャルマーケティングにて起業。2006年に一橋大学を卒業後、野村証券株式会社に入社。支店営業にて同年代のトップセールスや会社史上最年少記録を樹立し、最年少で本社の超富裕層向けプライベートバンク部門に異動。その後シンガポールへの駐在とビジネススクールへの留学やタイへの駐在を経て、本店ウェルスマネジメント部で金融資産10億円以上の企業オーナー等への事業承継や資産運用・管理などのコンサルティングを担当。

2013年3月に野村証券を退職し、2013年4月株式会社ZUUを設立、現在に至る。

◇今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

### メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP実務研究会事務局では、FP実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP実務研究会事務局【㈱日税ビジネスサービス 総合企画部】までご連絡ください。TEL 03-3340-4488